

「放射性物質の食品健康影響評価に関するワーキンググループ」  
における主な検討課題(案)

- ウラン並びにプルトニウム及び超ウラン元素(アメリシウム及びキュリウム)のアルファ核種

(留意点)

- ・ ウランについては、動物実験で腎毒性を示すデータもあり、個別に物質としての毒性の評価も必要と考えられる。
- ・ 曝露状況に関するデータが極めて乏しい状況が継続しており、随時、新しい情報を確認する必要がある。

- ストロンチウム(放射性セシウムに関連して)

(留意点)

- ・ ストロンチウムが環境中にどの程度放出されたか等の情報があまり得られておらず、随時、新しい情報を確認する必要がある。

- 放射性ヨウ素及び放射性セシウムも含め、放射性物質の遺伝毒性発がん性のリスク及び胎児への影響に関する検討

- 食品由来の内部被ばくと総被ばく量との関係に関する検討

(参考)

「放射性物質に関する緊急とりまとめ」において示された今後の課題は以下のとおり。

放射性物質は、遺伝毒性発がん性を示すと考えられ、発がん性に関する詳細な検討及び胎児への影響等について詳細な検討が本来必要であり、今回の検討では、発がん性のリスクについての詳細な検討は行えていない等、さまざまな検討課題が残っている。さらに、既に評価要請がなされ、今回の緊急とりまとめの対象とはしなかった、ウラン並びにプルトニウム及び超ウラン元素のアルファ核種について、曝露状況等も把握した上での評価や、放射性ヨウ素及びセシウムも含めて遺伝毒性発がん物質としての詳細な評価、あるいは各核種の体内動態等に関する検討も必要である。

また、内部被ばくを考慮すると、放射性セシウムの食品健康影響評価に関しては、直接評価要請はなされていないが、ストロンチウムについても曝露状況等も把握した上で改めて検討する必要があると考えられる。